

社会科学学習指導案

日時 令和2年10月27日(火) 第5校時

場所 揖斐川町立揖斐川中学校南舎3階 2年1組教室(37名)

授業者 笠井 慎吾

1 単元

開国と近代日本の歩み～明治維新～(全8時間)

2 単元のねらいと その捉え(教材観)

本単元では、1868年の五箇条の御誓文から1890年の帝国議会開設までを扱う。明治時代の初期にあたり、欧米列強の植民地化を免れる為に短期間で近代化を推進した時代である。

本単元では、短期間で近代化を推し進めた新政府のリーダーたちの思いや働きに焦点を当て、欧米諸国の脅威が迫る複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に触れられるようにしたい。そのために、前単元「開国と近代日本の歩み」とのつながりを大切にして学習を進める。特に、前単元では①ヨーロッパのアジア侵略の様子から日本に欧米諸国の脅威が迫っている時代であること、②外国の軍事的な圧力に負けて不平等条約を結んだこと、を捉えさせる。その上で、本単元では単元を貫く課題を『明治政府はどのように近代化を進めたのか』とする。近代化を進めるのは「外国との不平等条約の改正」という狙いがあり、そのために新政府のリーダーたちが「外国と対等な関係が築ける新しい国」をつくりたいという強い思いをもっていたことをおさえない。第2時「明治維新の三大改革」や第3時「殖産興業」の学習では、新政府(リーダー)が諸政策を行った理由を問い、それが日本の近代化につながることをその都度、丁寧に教えていくことで、当時のリーダーの思いに触れられるようにする。また、第5時「岩倉使節団」の学習では、外国との国力の差を痛感した大久保利通の思いを捉えさせる。第8時の終末では大日本帝国憲法成立後の年表から、不平等条約の改正に成功したことを確認し、当時の日本が新政府のリーダーたちが願った「外国と対等な関係が築ける新しい国」となったことを捉えられるようにしたい。

なお「近代国家」とは、新政府のもとで中央集権化し、天皇を中心として一つの国としてまとめ、憲法に基づく政治が行われること、そして国民から選ばれた代表者で議会が行われること、ができる国家であると捉えている。

本時では、「西南戦争」を取り上げる。近代化を進める新政府の立場も理解しつつも土族の側に立つ西郷と、欧米視察で日本の近代化の必要性を痛感した大久保の両者の立場から「西南戦争」を見る。当時の日本の状況を捉えながら二人の置かれた立場や思いに迫ることで、時代の転換期において、それぞれの立場の人の努力によって日本の近代化が進められたことに気づかせたい。本時の学習問題を「西郷隆盛と大久保利通(新政府)は戦わなければならなかったのか。」と設定した。西郷か、大久保かの二択ではなく、このような学習問題とすることで、生徒は西郷と大久保の両者の立場から西南戦争を考えなければならない。西郷の視点から見えてくる西南戦争と、大久保の視点から見えてくるそれは大きく異なるものであろう。また、戦わなければならなかったのか否かについて、自分の立場をはっきりとさせることで、自分の考えの根拠をもって仲間と議論をすることができる。この学習を通して、生徒が多面的・多角的に考察したり、自らが思考・判断したことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養いたいと考えている。

3 生徒の実態

4. 指導計画（全8時間）

時	ねらい	活動内容	評価規準
1	明治政府の方針や諸改革の内容を調べる活動を通して、明治政府が近代化を進めた過程に関心を持ち、単元を貫く課題を設定し、追究意欲をもつことができる。	年表から明治政府が様々な改革を進めたことを知り、明治政府の方針や諸改革の内容を調べる。明治政府のねらいが日本の近代化、さらには不平等条約の改正であったことを捉え、『明治政府はどのように近代化を進めたのか』という単元を貫く課題を設定する。	明治維新に関心を持ち、明治政府が近代化を進めた過程を意欲的に追究しようとしている。（関心・意欲・態度）
2	明治維新の三大改革について調べる活動を通して、近代化政策の基礎が整えられたことに気付き、人々の生活が大きく変化したことを理解することができる。	明治維新の三大改革（学制・徴兵令・地租改正）について資料をもとに追究し、三大改革が日本の近代化政策を進めるための基礎となったことを捉える。また、それによって人々の生活がどのように変化したのか理解する。	学制・兵制・税制の改革の内容と、人々の生活に与えた影響について理解している。（知識・理解）
3	明治政府が赤字にも関わらず富岡製糸場の操業を続けた理由を考える活動を通して、政府が近代的な産業発展のために殖産興業政策を進めたことを考察することができる。また、文明開化の様子から欧米文化が流入したことで、人々の生活が大きく変化したことを資料から読み取ることができる。	明治政府が赤字にも関わらず富岡製糸場の操業を続けた理由を考え、政府が近代的な産業発展のために殖産興業政策を進めたことを捉える。 文明開化の様子から欧米文化が流入し、日本人の衣食住が欧米化したことを読み取る。	近代的な産業発展のために政府が殖産興業を進めたことを考察している。（思考・判断・表現） 文明開化によって人々の生活が大きく変化したことを読み取っている。（技能）
4	岩倉使節団について調べる活動を通して、使節団の目的が不平等条約改正から海外視察に変わったことに気付き、使節団が国力の充実の必要性を痛感したことを理解することができる。	岩倉使節団の視察過程について、「米欧回覧実記」などの資料をもとに調べ、大久保利通ら使節が欧米と日本の差を目の当たりにして国力の充実の必要性を痛感したことを理解する。	使節団が欧米の政治や産業、社会状況の視察過程から日本の近代化を進めるためには国力の充実が必要であることを痛感したことを理解している。（知識・理解）
5	明治政府の外交政策について調べる活動を通して、政府内で意見が対立したことに気付き、国境と領土の確定に政府が欧米型の外交政策を取り入れ、近代的な国際関係にならおうとしたことを資料から読み取ることができる。	明治政府の外交政策について資料をもとに調べ、政府内で意見が対立し西郷隆盛や板垣退助が政府を去ったこと（明治6年の政変）や、国境と領土の確定に欧米型の外交政策を取り入れ、近代的な国際関係にならおうとしたことを読み取る。	政府が欧米型の外交政策を取り入れ、近代的な国際関係にならおうとしたことを読み取っている。（技能）
6	※「6 本時の活動」を参照		
7	自由民権運動が始まった経緯やその過程について調べる活動を通して、運動の高まりが国会の開設につながったことを資料から読み取ることができる。	西南戦争後は政府への批判が言論によるものを中心となったことを知り、自由民権運動について資料をもとに調べる。自主的な憲法草案が作られたことや政府内で国会と憲法の内容や、開設、制定の時期について分かれたこと、運動の高まりが国会の開設につながったことを資料から読み取る。	自由民権運動の高まりが国会の開設につながったことを資料から読み取っている。（技能）
8	大日本帝国憲法の成立過程や内容、帝国議会の開設について調べる活動を通して、大日本帝国憲法の発布により憲法に基づいた議会政治が始まったことに気付き、法の面での近代化が進められたことを理解することができる。	大日本帝国憲法の成立過程や内容、帝国議会の開設について資料をもとに調べ、アジアで初の立憲制国家が成立したことを捉え、法の面での近代化が進められたことを理解する。	立憲制国家となったことで法の面での近代化が進められたことを理解している。（知識・理解）

5 研究に関わって

<研究内容2>

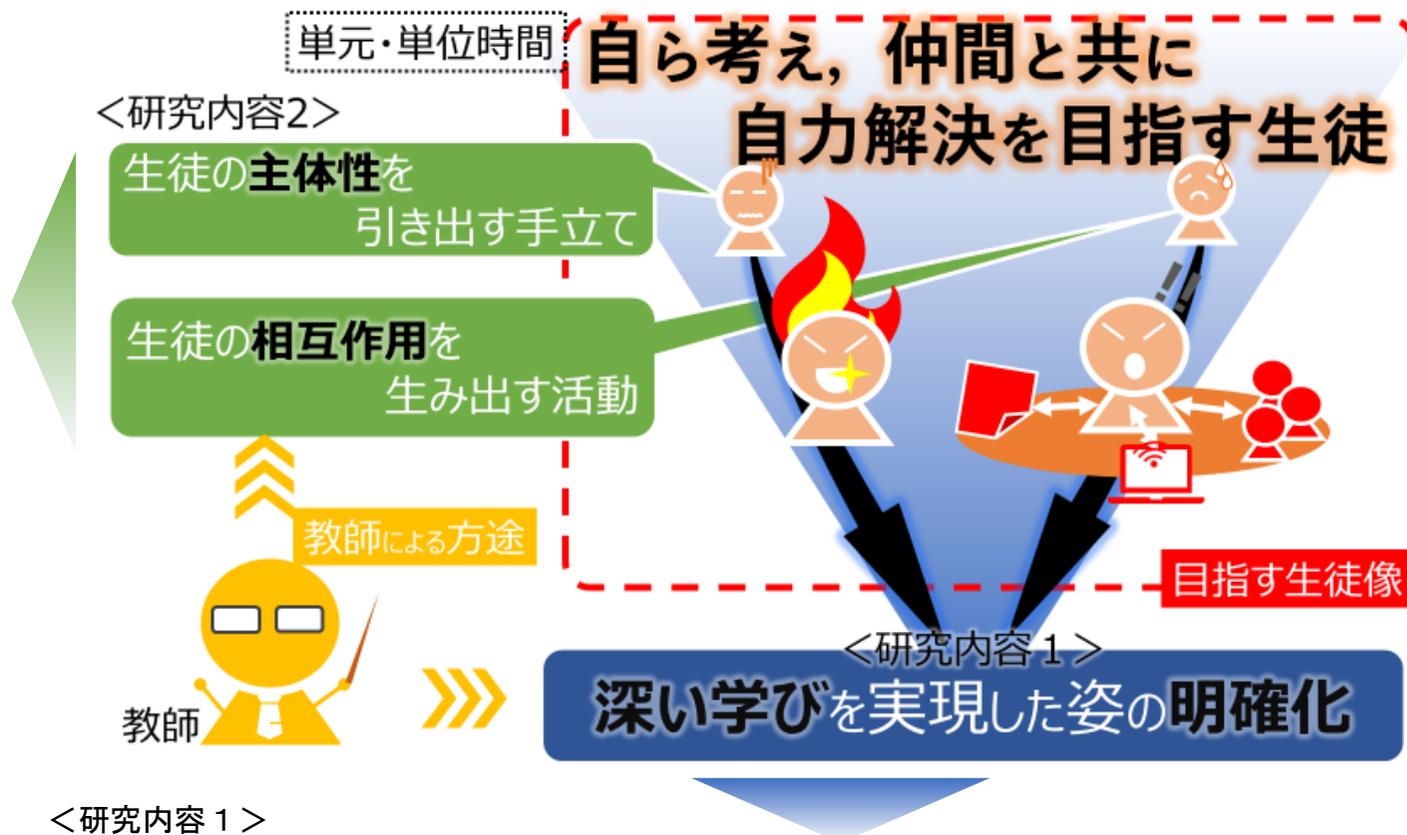
本時の手立て・活動 と 期待する効果

①生徒にとって魅力的な教材の開発

本時は「西南戦争」を取り上げ、西郷隆盛と大久保利通に焦点を当てる。竹馬の友であった2人は、明治新政府の中心として新しい国づくりを進める。新政府による諸改革により既得権を剥奪された士族の側に立つ西郷と、多くの犠牲を出してでも近代化を進める新政府側に立つ大久保が対立したのが西南戦争である。「2人は対立しなかったのか」を追究することで、共に日本の近代化を願うものの、立場の違いから対立せざるを得なかった両者の思いに迫ることができる教材であり、生徒の主体性を引き出すことができると考える。

②生徒の学び合いを生み出す交流活動

全体追究では、2人は「戦わなくてはならなかった」or「戦わなくてもよかった」のいずれかの立場に立って追究するようにする。自分の立場を明確にすることで、他者の考えと比較しやすくなると考える。また、板書にネームプレートを貼り全体で共有しながら交流活動を位置づける。そうすることで、教師は生徒の考えを把握し、生徒同士の活発な議論を生み出すことにつながると思う。



<研究内容1>

本時の深い学び	本時の深い学びを実現した姿（具体）
西南戦争で西郷隆盛と大久保利通（新政府）が戦わなければいけなかったか否かを当時の日本の状況や2人の立場から考え、仲間と議論する活動を通して、西郷には士族、大久保（新政府）には新しい国づくりとそれぞれに守りたいものがあつたことに気づき、日本の近代化が様々な人々の努力によって進められたことが分かる。	西郷も大久保もそれぞれの立場で守りたいものがあつた。外国と対等の国をめざし新政府によって新しい国づくりが進められたことで、士族は特権を奪われ苦しい思いをしていた。西郷は、新政府の思いが分かるものの士族を見捨てることはできなかった。大久保は海外視察で外国との国力の差を痛感したことで、日本の近代化を進める必要性を強く感じていた。時代の転換期において、それぞれの立場の人の努力によって日本の近代化が進められたことが分かった。

6 本時の学習（6/8）

① 本時のねらい

西南戦争で西郷隆盛と大久保利通（新政府）が戦わなければいけなかったか否かを当時の日本の状況や2人の立場から考え、仲間と議論する活動を通して、西郷には士族、大久保（新政府）には新しい国づくりとそれぞれに守りたいものがあつたことに気づき、日本の近代化が様々な人々の努力によって進められたことが分かる。

② 本時の展開

過程	活動内容	指導・援助, 研究について
導入	1. 西南戦争で、共に新しい国づくりを進めてきた西郷隆盛と大久保利通（新政府）が戦ったこと、その結果、大きな犠牲を出したことから学習問題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> 同郷の西郷隆盛と大久保利通が共に「外国と対等な関係が築ける新しい国づくり」を進めていたこと、西南戦争によって西郷隆盛と大久保利通（新政府）が対立し、西郷が自刃に追い込まれることを確認する。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 西郷隆盛と大久保利通（新政府）は戦わなければならなかったのか。 </div> 2. 学習問題について、個人で追究する。 3. 学習問題について、自分の立場を明らかにし、全体で交流する。 【戦わなければならなかった】 <ul style="list-style-type: none"> 新政府によって特権を奪われた士族は大きな不満をもっていた。西郷も士族の不満を抑えることができなかった。（士族の立場） 新しい国づくりを進めるためには、士族の反乱を武力で抑えるしかなかった。外国に追いつくためには犠牲を払ってでも近代化を進める必要があつた。（新政府の立場） 【戦わなくてもよかった】 <ul style="list-style-type: none"> 大久保は争いが国力の充実の妨げになることが分かっていた。西郷も私学校を設立し士族の不満を逸らそうとしていることから新政府と戦うことは望んでいなかった。 新政府の諸政策は「日本を外国から守るため」のものだった。結果として士族の特権を奪うものとなったが、国民のための政策だった。 大久保にとっては、盟友の西郷や出身藩の士族と戦うことになってしまう。新政府の軍隊と士族では戦力差が大きく、大きな犠牲が出ることは明らかだった。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに個人で追究し、自分の立場を明らかにすることを伝える。 自分の立場を明らかにした上で、士族・新政府の両方の立場から考えられている姿を価値づける。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆研究内容2 生徒の学び合いを生み出す交流活動 自分の立場を明確にして全体交流する。また、板書にネームプレートを貼り、全体で共有しながら交流活動を位置づける。教師は生徒の考えを把握し、生徒の活発な議論を生み出す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 当時の日本の状況を捉えながら、西郷と大久保の思いに迫るようにする。 西郷と大久保のどちらが正しかったのかを問い、西郷と大久保のそれぞれの立場に守りたいものがあつたことを確認する。
終末	4. 西南戦争の結果について、次の事実を知る。さらに、大久保の言っている「新しか日本」「強か日本」が2人がめざしていた「外国と対等な関係が築ける新しい国」を指していることを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 西郷の死の知らせを聞いた大久保が「おはんの死とともに、新しか日本がうまれる。強か日本が・・・」と号泣した事実 </div> 5. 本時の学習についてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 西郷も大久保もそれぞれの立場で守りたいものがあつた。外国と対等の国をめざし新政府によって新しい国づくりが進められたことで、士族は特権を奪われ苦しい思いをしていた。西郷は、新政府の思いが分かるものの士族を見捨てることはできなかった。大久保は海外視察で外国との国力の差を痛感したことで、日本の近代化を進める必要性を強く感じていた。時代の転換期において、それぞれの立場の人の努力によって日本の近代化が進められたことが分かった。 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆研究内容1 深い学びを実現した姿の明確化 ①学習問題について、当時の日本の状況や2人の立場から考え、西郷には士族、大久保には新しい国づくりとそれぞれ守りたいものがあつたことに気づく。 ②日本の近代化が様々な人の努力によって進められたことが分かる。</p> </div> <p>《評価規準》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 当時の日本の状況から、西郷と大久保の両者の立場に立って考え、2人の思いに迫りながら様々な立場の人々によって日本の近代化が進められたことを説明したり、まとめたりしている。 （思考・判断・表現） </div>